



衣川区 義経最期の地に思いをはせ 「衣河館」と「平泉館」講演会

「衣河館」と「平泉館」講演会（衣里地区振興会主催）は12月12日、サンホテル衣川荘で開かれました。専門家による講演会や対談、紙芝居講演などが行われ、約100人の参加者が衣川の歴史に理解を深めました。

衣河館は源義経最期の地。近年の発掘で、接待館遺跡との関連が語られています。弘前大学の斉藤利男教授は「衣河館は居住地だけでなく、政治や交易、儀式の機能も併せ持つ建物群で構成され、接待館地区も含まれていたのではないか」という説を話していました。

斉藤教授の講演に熱心に耳を傾ける参加者たち



家族などへの感謝の気持ちを披露した「ありがとうの手紙コンサート」

胆沢区 ありがとうは旋律によって イルミナイト2010

胆沢文化創造センターで12月23日から25日まで、イルミナイト2010が行われ、訪れた市民らはコンサートやダンスイベントなどを楽しみました。

今回初めて行われた「ありがとうの手紙コンサート」では、市内外から募集した23編の手紙を、ギターなどの演奏に併せて歌や朗読で披露。娘と来場した胆沢区南都田の高橋実子さん（33）は「弾き語りが良かった。お母さんへの手紙は、感謝の気持ちが伝わってきた」と語り、コンサートの余韻に浸っていました。



力強く筆を走らせる子どもたち

江刺区 生き生きと力強い筆さばき 暁学園で恒例の書初会

幼児施設暁学園（有馬暁山園長、園児120人）で1月4日、恒例の書初会が行われました。「落ち着いた心と正しい礼儀」を身に着けることを目的として、毎年この時期に行われているものです。

大勢の保護者が見守る中、課題の「ふじ山」に取り組んだのは、5歳児の26人。有馬園長の指導で、子どもたちは一筆ずつ生き生きと筆を運びました。藤田南朋くん（6）は「教えられたとおりに書けた。今までで一番」と出来栄に満足していました。

前沢区 真ごころ込めてぺったんこ 白山公民館で福祉餅つき

冬休み「わんぱく塾」（白山公民館主催）が12月26日、白山公民館で開催され、「福祉餅つき」を行いました。これは、自分たちがついたもちと手紙を地域の1人暮らしのお年寄り世帯に届けて、心の交流を図ることを目的に、昭和61年から続けられているものです。

白山青年会（後藤仁一会長）の協力の下、「わっしょい」の掛け声が響き、あんなにいいもちがつきあがりました。白山小2年の鈴木優菜さんは、「白の真ん中をつくのが難しかった」と話していました。

子どもたちは重いきねに悪戦苦闘



水沢区 時を越え輝く、偉大な功績

後藤寿庵福原就封400年記念事業の大成を祈願



参加者が心を一つにして、記念事業の成功を祈願しました

後藤寿庵福原就封400年記念事業の大成祈願祭が12月11日、駒形神社でしめやかに執り行われました。関係者約50人が出席し、今後の事業の成功を祈願。同実行委員会では、平成24年度までの間、顕彰碑の建立、記念講演会、植樹祭や市民劇など数多くの事業の実施を通じて、後藤寿庵の功績を市内外に広く伝えていく予定です。

江戸時代に現在の水沢区福原地区の領主に任命された後藤寿庵は、奥州の穀倉地帯の基礎を築いたほか、見事な政治手腕を発揮し、地域を統治。また、当時禁止されていたキリスト教の信者でもありました。寿庵が残した偉大な業績は今もなお、ここ奥州の地に深く根付いています。

前沢区 息をそろえて華やかに舞う

前沢一輪車クラブが演技発表会

前沢一輪車クラブ「アルスノーバ」の演技発表会が12月26日、前沢ふれあいセンターで開かれました。色とりどりの衣装に身を包んだ子どもたちが、ステージいっぱいに華麗な演技を繰り広げました。

プログラムは、ソロやペア、グループ演技などを織り交ぜた3部で構成。曲に乗り次々と舞い踊る「ユニ・ダンシング・カーニバル」では、31人のクラブ員が見事に演技切り、詰め掛けた約500人の観客から惜しみない拍手が送られていました。



観客を魅了したクラブ員の演技



躍動感のある動きで演奏した江刺愛宕小学校の児童たち

江刺区 勇壮なバチさばきの競演 奥州ジュニア太鼓フェスティバル

2年ぶりの開催となる奥州ジュニア太鼓フェスティバル（奥州地方太鼓連合協議会主催）が12月12日、江刺体育文化会館（ささらホール）で開かれました。市内から14団体が参加し、保育園から高校生までの約220人の子どもたちが、練習の成果を披露しました。

会場には、出演者の家族など約700人が来場。勇壮なバチさばきや掛け声などで、次々とつくり出されていく和の響きに、来場者たちは圧倒され、聞き入っていました。